



大分市立  
鴛野小学校  
学校だより

# 鴛野小通信

令和2年4月20日(月)

NO. 1

発行者：板井勝博

## どうぞよろしくお願ひします

豊後大野市立千歳中学校より大分市立鴛野小学校へ  
転任してまいりました校長の板井勝博です。右の表に  
ある教職員とともに鴛野の子どもたちの教育に精一杯  
頑張る所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

4月8日、およそ一ヶ月ぶりに子どもたちの声が鴛野小  
学校に響きました。待ちに待った新年度の始業式。(といっ  
ても翌日からは、またお休みに入るわけですが…。)

子どもたちは運動場に集まり  
静かに座って待っています。お  
しゃべりすることもなく整然と  
待つ姿は、鴛野の子どもたちの  
素晴らしさであり、昨年度まで  
の鴛野小の先生方の指導の賜物  
に違いありません。

最初に新任式。まずは、転任  
して来られた先生方による自己  
紹介でした。私は、板井(いた  
い)をよく坂井(さかい)と読  
み間違えられるということ盛  
り込んで自己紹介しました。子  
どもたち、覚えてくれたかな？

新任式の後、始業式。そして、  
子どもたちが楽しみにしていた  
であろう担任発表です。「担任の先生が発表されても大き  
な声を出してはいけませんよ。」と一言付け加えると子ど  
もたちは素直に従い、静かに聞いていました。

穏やかな春の陽気に恵まれた始業式から一転、入学式  
日の天候は「春の嵐」と表現してもよいくらいでした。前  
日から降り続く雨、横殴りの風、そして、季節外れの寒さ。  
体育館前にきれいに並べた鉢植えの花々も強風に花びらを  
散らしています。体育館の中も新型コロナウイルス感染防  
止のため窓をできるだけ開けていましたので、そこから、  
吹き込んでくる風でかなり冷え込んでいました。

とはいえ、新入生にとっては一生に一度の晴れ舞台です。  
鴛野小学校としても、子どもたちにとって最高の入学式に  
なるように努力させていただきました。

さて、翌日から再び休校に入った  
大分市内の小中学校。今はまだ先行き  
不透明ですが、どうか、ご自宅で感染  
防止に努め、晴れて登校できる日を  
待っていただきたいと思います。  
私たちも、その日が来るのを待ち  
望んでいます。



\* 青空に桜の花が映えるよい天気  
でした。



\* 本当に、こんな風でした！

## 2020年度 鴛野小学校教職員

\* よろしくお願ひします。

校長	板井 勝博
教頭	古谷 裕邦
教務	大谷 文
1の1	下堀 聡子
2の1	磯貝 健吾
3の1	島田 海晟
4の1	辻 のぞみ
5の1	安部 睦美
5の2	森崎 哲
6の1	渡辺 啓一
6の2	千手 祐美
スマイル	野田 みゆき
わかさ	堤 幸枝
たんぼぼ	吉原 寿子
算数3・4年	伊達 真弓
養護教諭	石原 百恵
学校事務	元永 茜
児童支援	野中 恵子
児童支援	姫嶋 なお子
図書館支援員	須田 智子
学校主事	佐伯 直美
給食調理員	丸山 理江
給食調理員	安東 美和
給食調理員	後藤 ヒロ子

## 「鴛野」の由来 ～地名の由来を知ること地域に親しみを持つ～

不思議なことに、年齢を重ねるにつれ珍しい名字や地名の由来が気になり始めました。3月まで勤めていた豊後大野市千歳町もそうでした。千歳の場合は新しい地名を付ける際に相談された人が、自分の母親の名前を付けたのだそうです。(千歳はいいところですよ。ぜひ、行ってみてください。)

さて、鴛野小学校に転任が決まって以来、「鴛野」という地名が気になり始めました。

漢字を調べてみると「鴛野」の「鴛」は音読みで「エン・オン」、訓読みで「おしどり」です。恥ずかしい話、私は初めて「鴛野」の「鴛」はおシドリという意味なのだ、そのとき知りました。さらに、オシドリといえば「おしどり夫婦」という言葉を知っているくらいで、本物のオシドリを見たことはありませんでした。

ネットで調べてみると非常にカラフルな鳥です。こんなきれいな鳥が鴛野の地に棲んでいたのでしょうか。ウィキペディアによると、「日本では北海道や本州中部以北で繁殖し、冬季になると本州以南（主に

西日本）へ南下し越冬する」とありますので、春から秋にかけては北日本で暮らし、秋から冬になると、ここ鴛野に越冬のため飛来していたのかもしれませんが。

4月になり、鴛野小に転任して数日後、学校の玄関に地名の由来が紹介されていると教えてもらいました。それが下の文です。皆さんご存じのことかと思いますが、改めて紹介させていただきます。

文を読むと「寒田川の下流」とありますから、鴛野小学校が建っている場所よりも少し西のできごとだと思います。確かに寒田川の下流に「鴛野」という地名がありますね。(まだ、詳しくないので地図で確認しただけです。申し訳ありません。)  
「秋のある日」とありますので、北の方から越冬のために大分に飛来した鴛鳥に、このようなことがあったのでしょうか。

古くから伝わる地名には何らかの由来があるはずです。その由来を知ること、その地域に親しみが持てるようになります。これは、子どもも教職員も同じです。私も鴛野への親しみが一気に増しました。

### 鴛野おしのの由来

むかしむかしの話です。

秋のある日、寒田川の下

流おすめすに雌雄おしどりの二羽の鴛鳥が浮

いていました。通り合わせて

いた狩人かりやうとは喜びいさんで弓

に矢をつがえて、ぱつしとば

かり放ちました。ねらいた

がわず一矢で雄おすを射止いとめま

したが雌めすはどこかへ 飛び

去つてしまいました。

狩人はいとめた雄の羽根

が一枚なくなっていました。が、

気にもとめませんでした。

それから春が過ぎ、夏も

終つて、木の葉の散る秋とな

りました。

前の年、鴛鳥の雄を射止

めた狩人はなにげなく通り

かかつて、ふと川面かわもを見ると

去年と同じところにまた一

羽の雌の鴛鳥が泳いでいるで

はありませんか。

すっかりねらいをさだめて  
今度も狩人は一矢で射止  
めました。

その射止めた雌を川から  
引きあげてみると、翼つばさの下  
から一枚の雄の羽根がおち  
ました。

これを見た狩人は、いたく  
心をいたため、その日から  
殺生ころしやう(生き物を殺すこと)な狩りを  
やめてしまったということ  
です。

このことがあつてから、この  
地を鴛野というようになつ  
たということ。す。

(植田うきたのむかしばなし)

―民話・伝説・歴史ものがたり―

牧野桂一 編著

